

令和5年度夏季展

細川護立の愛した画家たち

—ポール・セザンヌ 梅原龍三郎 安井曾太郎—

Painters loved by Marquis Hosokawa Moritatsu: Paul Cézanne, Umehara Ryuzaburo, and Yasui Sotaro

およそ100年前に細川護立がパリで自ら求め、
永青文庫に唯一残るセザンヌを展示します。

永青文庫の設立者・細川護立（1883～1970）は、白隠・仙厓などの禅画、刀剣、近代絵画、東洋美術などを幅広く蒐集し、「美術の殿様」とも呼ばれました。本展で久しぶりに公開するポール・セザンヌ（1839～1906）の水彩画「登り道」は、文芸雑誌『白樺』に掲載されたのち、大正15年（1926）にヨーロッパ滞在中の護立がパリで自ら購入した思い出の作品です。1874年の第1回印象派展以前に描かれたセザンヌの初期作であり、日本にもたらされた最初期のセザンヌと考えられています。この「登り道」について、護立は後に「私がもっとも大切にしているもの」と語っています。

また護立は、学習院の同級生であった武者小路実篤（1885～1976）らとの交友から『白樺』の活動を支援するほか、梅原龍三郎（1888～1986）や安井曾太郎（1888～1955）など同時代の芸術家とも親交を結びました。永青文庫に残る書簡や逸話からは、彼らの親密な交友が見て取れます。本展では、そうした芸術家との交流によって細川家に集った洋画を中心に、永青文庫の近代絵画コレクションの一面をご紹介します。



ポール・セザンヌ「登り道」1867年、永青文庫蔵

■本展のみどころ

- 1、14年ぶりにポール・セザンヌの水彩画「登り道」(1867年)を公開。セザンヌ28歳の初期作です。
- 2、「登り道」は、細川護立が97年前(1926年)にパリで自ら購入し、日本にもたらされた最初期のセザンヌです。護立のパリでの写真や思い出の品も合わせて展示します。
- 3、梅原龍三郎・安井曾太郎の油彩やデッサンのほか、これまであまり公開する機会のなかった藤島武二、須田国太郎、奥村土牛などの作品も展示します。



ポール・セザンヌ「登り道」1867年、永青文庫蔵



細川護立と妻・博子

ポール・セザンヌ (1839 ~ 1906)

フランスの画家。エクス・アン・プロヴァンス生まれ。同郷の友人であるゾラに勧められ、1861年にパリに出て絵画を学びます。当初ドラクロワ、クールベ、マネに影響を受けますが、ピサロと出会って印象派に傾倒。第1回印象派展(1874年)、第3回印象派展(1877年)に出品し、モネ、シスレー、ルノワールらと交友します。次第に幾何学的な形態に基づく独自の画風を築き、制作場所を故郷に戻してサント・ヴィクトワール山などをモチーフに制作を続けます。キュビズムなど20世紀美術に大きな影響を与えたことから「近代絵画の父」と評されます。

「登り道」

赤・青・緑の力強い色彩で構成された水彩画の小品です。右下のサイン「67 P. Cézanne」から1867年、セザンヌ28歳の作品と分かります。第3回印象派展(1877年)に出品され、セザンヌの支援者であるヴィクトール・ショケ旧蔵。ショケ夫人没後、パリのベルネーム・ジュヌ画廊が入手。日本では、大正4年(1915)文芸雑誌『白樺』第6年11月号に挿画として掲載されています。大正15年(1926)、護立がヨーロッパを巡遊した際、ベルネーム・ジュヌ画廊から入手しました。護立は「かかるとの美しきセザンヌがある事は真に期待しない喜び」と語っています。

ほそかわもりたつ

細川護立 (1883 ~ 1970)

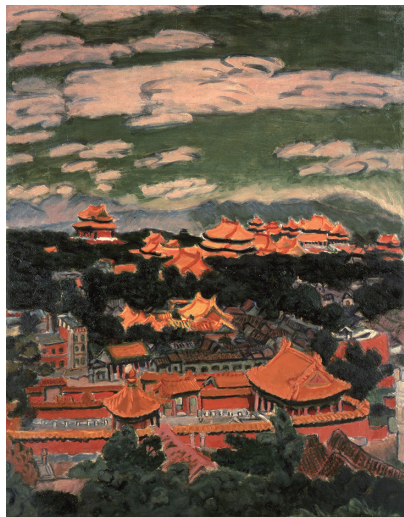
細川家14代護久の子として東京に生まれます。10代から白隠^{はくいん}などの禅画や刀剣の蒐集を始め、横山大観・梅原龍三郎・安井曾太郎など同時代の芸術家を支援するほか、東洋美術なども幅広くコレクションしました。兄の死去により細川侯爵家16代を相続。国宝保存会会長などの文化行政に携わり、昭和25年(1950)に「財団法人永青文庫」を設立。晩年は永青文庫の建物で過ごしました。

うめはらりゅうざぶろう

梅原龍三郎 (1888 ~ 1986)

京都生まれ。同郷で同年生まれの安井曾太郎とともに浅井忠^{あさいちゅう}に洋画を学び、明治41年(1908)、渡仏してルノワールに師事。帰国後は、二科会、春陽会、国画創作協会(洋画部)の創設に参加し、日本における洋画の確立に大きな役割を果たします。赤を中心とした色彩が印象的な、力強い筆遣いの油彩画のほか、日本の伝統的な岩絵具や和紙を用いた作品などで独自の画境を築き、安井曾太郎とともに昭和洋画壇の双壁とされます。永青文庫には、梅原からの書簡が230通以上伝わり、護立との深い関係がうかがわれます。

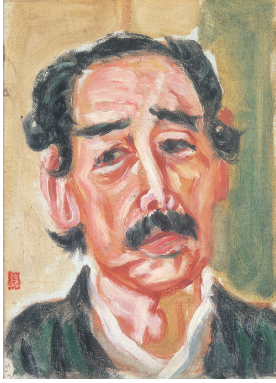
「紫禁城」は、北京の色彩の豊かさに魅了された梅原が、北京飯店の5階に2か月間滞在して描いた作品です。梅原の特徴である力強い色彩により、壮大なスケールの躍動的な景観に仕上げられています。



梅原龍三郎「紫禁城」

しげんじゅう

昭和15年(1940)、永青文庫蔵



梅原龍三郎「横山大観像」
昭和17年（1942）、永青文庫蔵



安井曾太郎「座像デッサン」
昭和4年（1929）頃、永青文庫蔵



安井曾太郎「風景」
永青文庫蔵



藤島武二「婦人像」
永青文庫蔵



安井曾太郎「承德の喇嘛廟」昭和12年（1937）
永青文庫蔵

やすいそうたろう 安井曾太郎（1888～1955）

京都生まれ。梅原龍三郎とともに浅井忠に師事、明治40年（1907）に津田青楓とともに弱冠19歳で渡仏。ジャン＝ポール・ローランスに学び、後にミレーやピサロ、セザンヌらの作風を研究します。帰国後は二科会を中心に活動。画面を鮮やかな色彩の対比とデフォルメにより構成する「安井様式」を確立し、梅原龍三郎とともに昭和洋画壇の双壁とされます。護立は、代表作となる「金蓉」（現・東京国立近代美術館蔵）を依頼するなど、安井の作品を積極的に蒐集して支援しました。

「承德の喇嘛廟」は、承德（現・河北省）のチベット仏教寺院（ラマ廟）を描いたもので、安井は護立に宛てた手紙に「喇嘛寺は実に美しいです どこでも絵になる様ですからどこから描いてよいかまよう有様です」と書いています。ラマ廟の鮮やかな色彩が、安井の特徴であるリズムカルな筆触により風景と調和した作品です。

【記念講演会】

細川護立の「表」と「奥」（仮題）

講 師 ＝ 林田龍太氏（熊本県立美術館 学芸普及課長）
日 時 ＝ 2023年8月5日（土）13:30～15:00
会 場 ＝ 和敬塾本館 旧細川侯爵邸1階ホール（東京都文京区目白台1-21-2）
定 員 ＝ 30人（抽選）
参加費 ＝ 1000円（年間パスポート会員、大学・高校生 500円）
※税込。当日現金でお支払いください。

申込方法 ＝ 下記内容をご記入の上、メールまたは往復はがきにてお申込み下さい。

メール送信先：kouen2308@eiseibunko.com

往復はがき宛先：〒112-0015 東京都文京区目白台1-1-1

メール件名・往復はがき宛名：永青文庫 8月5日講演会係

記入内容：①氏名（ふりがな）、②住所、③当日連絡の取れる電話番号、

④次のABCいずれか（A）年間パスポート会員、（B）一般、（C）大学・高校生、

⑤往復はがきの返信面にも住所・氏名を記入してください。

申込締切：7月11日（火）必着

※1回で複数名お申込みいただけます。

※抽選の結果など、詳細は7月12日（水）以降にお知らせいたします。

※メールの不着やドメインをブロックされた場合など、ご連絡に不備がある場合、参加の権利を無効とさせていただく場合がございますのでご了承ください。



和敬塾本館での講演会の様子

【ギャラリートーク】

展示会の見どころを担当学芸員が解説します。

日 時 ＝ 2023年8月13日、8月27日、9月3日、9月10日（すべて日曜日）14:00～14:20

会 場 ＝ 永青文庫 4階展示室

定 員 ＝ 20名（先着順）※申込不要、参加無料（要入館料）

※イベントは状況により、変更・中止となる場合がございます。

■ 開催概要

展覧会名	令和5年度夏季展 細川護立の愛した画家たち ―ポール・セザンヌ 梅原龍三郎 安井曾太郎―
会 期	2023年7月29日(土)～9月24日(日)
会 場	永青文庫(東京都文京区目白台1-1-1)
開館時間	10:00～16:30 (入館は16:00まで)
休 館 日	毎週月曜日(ただし9/18は開館し、9/19は休館)
入 館 料	一般1000円、シニア(70歳以上)800円、大学・高校生500円 ※中学生以下、障害者手帳をご提示の方及びその介助者(1名)は無料
主 催	永青文庫
展示内容	油彩・水彩・デッサンなど

※ 状況により、臨時に休館や開館時間の短縮を行う場合がございます。

※ ご来館にあたって事前予約は必要ありませんが、混雑時はお待ちいただく場合がございます。

※ 館内ではマスク着用を推奨いたします。当館の感染症対策については、ホームページをご覧ください。

■ 永青文庫とは

永青文庫は、肥後熊本54万石を治めた細川家の下屋敷跡にある、東京で唯一の大名家の美術館です。細川家は南北朝時代の頼有よりあり(1332～91)を始祖とし、近世細川家の初代藤孝ふじたか(幽斎、1534～1610)と2代忠興ただおき(三斎、1563～1645)が大名家の礎を築き、3代忠利より240年にわたって熊本藩主をつとめました。永青文庫の名称は、中世細川家の菩提寺である建仁寺塔頭・永源庵えいげんあんの「永」、初代藤孝の居城・青龍寺城しょうりゅうじょうの「青」に由来します。所蔵品は、細川家伝来の美術工芸品や歴史資料、そして設立者である16代細川護立(1883～1970)の蒐集品で、国宝8件・重要文化財35件を含む9万4000点にのぼり、テーマごとに展覧会を開催しています。永青文庫の建物は、昭和5年(1930)に建てられた細川家の家政所かせいじょ(事務所)を展示施設としたもので、細川家下屋敷の池泉回遊式庭園が活かされた「文京区立 肥後細川庭園」が隣接しています。



■ 近隣のご案内 文京区立 肥後細川庭園

肥後細川庭園は、熊本藩主細川家の下屋敷跡で、目白台の自然景観や湧き水を活かした池泉回遊式庭園です。庭園内の「松聲閣」しょうせいかくは細川家の学問所と伝えられる建物で、一時期は護立の住まいとして使用されました。



■ 展覧会に関するお問い合わせ

公益財団法人 永青文庫

〒112-0015 東京都文京区目白台1-1-1

E-Mail: eisei-pr@eiseibunko.com TEL: 03-3941-0850 FAX: 03-3943-0454

郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、どうぞお知らせください。

令和5年度夏季展 細川護立の愛した画家たち —ポール・セザンヌ 梅原龍三郎 安井曾太郎—
2023年7月29日(土)～9月24日(日)

貴社名:

媒体名:

ご担当者名:

ご所属:

TEL:

FAX:

ご住所:〒

E-mail:

掲載予定日: 年 月 日

掲載概要:(コーナー名、画像の掲載サイズなど)

- ☐ 読者プレゼント用チケット(5組10名様)ご希望の場合はチェックを付けてください。
※8月24日までにご紹介頂ける場合に限らせて頂きます。 ※チケットはゲラの確認後に送付いたします。

◆ご希望の写真番号に○を付けてください。

1



3



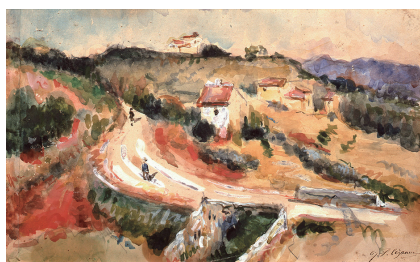
4



5



2



6



7



- 1、永青文庫外観
2、ポール・セザンヌ「登り道」1867年、永青文庫蔵
3、細川護立と妻・博子
4、安井曾太郎「座像デッサン」昭和4年(1929)頃、永青文庫蔵
5、安井曾太郎「風景」永青文庫蔵
6、安井曾太郎「承德の喇嘛廟」昭和12年(1937)、永青文庫蔵
7、藤島武二「婦人像」永青文庫蔵

【広報画像ご使用に際してのお願い】

※画像の使用は、展覧会のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。貸与した画像は、使用後速やかに消去願います。

※展覧会名、会期、会場、作品名称、所蔵者を必ずご掲載ください。

※掲載誌は1部ご惠贈願います。

【個人情報の取扱いについて】

※ご記入いただきました個人情報は、当館からの展覧会情報のご案内にのみ使用いたします。

許可なく第三者に個人情報を開示することはありません。